

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270400668
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム・栄田
訪問調査日	平成 19 年 12 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 15 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270400668
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム・栄田
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市栄田町42-58 (電話) 0957-25-0025

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(平成19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12.3 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有() 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	160 円	昼食 410 円
	夕食	210 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.75 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西諫早病院、愛真歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは静かな住宅街に位置しており、地域密着型サービスとして、運営推進会議の開催を通して自治会長、民生委員をはじめとする地域住民と日頃より交流を持ち、ホームの避難訓練などに協力してもらっている。また、近隣中学校の職場体験などの受け入れを行っている。

管理者は、職員ができるだけ外部研修を受講できるように配慮しており、職員は、連絡協議会をはじめとする様々な研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。

管理者と職員は、「笑顔で、ゆったり、ありのまま、あなたらしい暮らしを」というテーマのもと一丸となって利用者の支援にあたり、利用者一人ひとりの思いや喜びを共有しながらともに支えあう関係づくりに努めている。また、利用者が家族の結婚式に出掛ける際なども柔軟に対応しており、利用者や家族の信頼も厚く、馴染みの関係を大切にしながら前向きに支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価から出された課題について、管理者と職員で話し合い、日々のケアを振り返り、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々のケアを振り返り、職員全員の気づきや意見を出し合い集約しており、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は現在まで4回開催しており、ホームの活動報告や避難訓練への参加・協力の呼びかけ、地域との連携を図っている。また、ホーム便りの発行や地域との関わり方などについて意見や助言をもらい、地域の一員としてのホームの運営に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は常に親しみをもって利用者家族に接しており、家族の意見や不安などいつでも気軽に話してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、出された要望などは職員全員で検討し、早急に解決するよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、日頃から地域住民と挨拶を交わし顔馴染みになっており、運営推進会議やホームの行事に参加してもらうことで交流を図っている。また、近隣の中学校の職場体験なども受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域住民の一人として安心して暮らし続けられるように「笑顔で、ゆったり、ありのまま、あなたらしい暮らしを」をテーマに、ホーム独自のわかりやすい理念をつくりあげ、理念に沿って支援している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員同士で話し合いながら確認しており、職員は笑顔で利用者に接しながら言葉をかけ、常に利用者本位に考えて見守りを行うなど、理念にもとづいた実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、日頃から声をかけ合ったり、ホームの行事に参加してもらったりしており、地域の方々との交流がある。また、近隣中学校の職場体験などの受け入れや、併設デイサービスの利用者との交流の機会も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は共に評価を前向きに捉えており、理解を深めるよう説明を行い、日々のケアを振り返り、評価項目に沿って職員の気づきや意見をまとめて、全員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価結果をもとにケアについて振り返るとともに、改善策について検討し、取り組みに活かすよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、民生委員、近隣住民2名、家族2名、市職員、ホーム職員4名のメンバーで構成され、これまでに4回開催している。会議では、地域住民の避難訓練への参加・協力のお願いや、ホーム便りの発行などについての話し合いを行っており、参加者の意見を取り入れサービスの充実に活かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡協議会を通じて入居相談や問い合わせなどがあり、市の担当者とのやりとりも多く、利用者の認定更新時に相談することもあり、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームを訪問した際に、日頃の利用者の暮らしの様子や健康状態などの近況報告をしている。また、毎月の利用請求書に写真や手紙を添えて、個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問も多く、職員は常に親しみをもって話しかけ、家族に要望などを気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。また、家族から出された意見や要望などについては職員全員で検討し、早急に解決するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際は、利用者には不安や不満を抱かせないよう最善の努力をしており、新しい職員が入る場合にも、利用者にはきちんと紹介し、理解し安心してもらうように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が外部研修などを受講できるよう配慮しており、連絡協議会の研修には、毎回10名程の職員が自由参加している。また、研修参加者は、月1回の勉強会で研修の報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修会や勉強会に積極的に参加し、事業所同士の交流や情報交換を行っており、協働しながら質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の小規模デイサービスを利用して、日中ホーム内で一緒に過ごしてもらうことで、ホームの生活や雰囲気に馴染んでもらい、違和感なく入居できるように支援しており、家族とも相談しながら一人ひとりに合わせた対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、調理の技や工夫など教えてもらう場面や昔話を聞かせてもらうことも多く、職員も一緒に楽しみながら過ごしており、利用者の思いや喜びなどを共有しながら共に支えあう関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや生活習慣などを大事に考えて、職員は利用者寄り添い、表情や言葉などから思いや希望を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、利用者や家族の思いや意見などを聞き、介護計画に反映するようにしている。職員は、利用者があるままのその人らしい暮らしをするために、全員で意見交換やカンファレンスを行い、より具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、利用者の心身の状態の変化や家族の要望などに応じて、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、希望に応じて、通院支援やスマイミング、家族の結婚式などへの外出にも柔軟に対応し、利用者の満足感や安心感を高めるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに希望するかかりつけ医を受診しており、通院は利用者や家族の希望に応じて職員が支援している。また、利用者の体調に合わせて、往診や定期健康診断を受けられるように、かかりつけ医と協力しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体機能の低下や疾患など、利用者の状態に応じて、その都度家族に情報提供をしながら話し合いを行っている。職員は、本人や家族の思いを把握しながら支援の方針を検討し、職員全員が方針を共有して支援を行うよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりに尊敬の念をもって接しており、それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損ねることのないような接し方や言葉かけに配慮している。また、記録等の個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースや希望にそって見守りながら支援しており、入浴や食事の時間にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなどを利用者と一緒にいき、職員から感謝の気持ちを伝えている。食事は、利用者と職員と一緒に同じテーブルを囲んで、楽しみながら食事ができるように食べこぼしのサポートなどもさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきに行うよう決められているが、利用者一人ひとりの体調や希望、タイミングに合わせて、楽しみながら入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にあった楽しみや役割を見出し、本人ができることやできそうな仕事をお願いする等、得意分野で力を発揮してもらえるように支援しており、洗濯物たたみやごみ集め、チラシの整理など、利用者が楽しみながら行える役割を持って日々生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへの食材の買い出しや、外食や温泉へ出かけるなど、様々な外出支援を行っている。また、利用者家族の結婚式やスイミングに職員が同行して支援するなど、利用者や家族の個別の要望への対応も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などに鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。職員は、常に利用者のその日の気分や状態を把握し、安全面に配慮した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域住民の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事の量などは、一日を通して把握しており、メニューは利用者の体調や好みに応じて工夫し、とろみや刻み食など食事形態にもそれぞれに合わせて対応している。しかし、水分摂取量については把握していない。	○	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、利用者一人ひとりの一日の栄養摂取量、水分量をだまかに把握し、栄養や水分の十分な確保に活かすよう取組まれることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂などの共用空間は、明るく広々としており、利用者にとって不快な音やまぶしい光を感じる事もなく、ゆったり、のんびりと過ごせるような配慮がある。また、家具や調度品、ソファーなどを配置し、新聞などがさりげなく置かれ、生活感のある雰囲気が感じられ、利用者はそれぞれにお気に入りの場所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品や使い慣れた日用品を自宅から持ち込んでもらえるようにしており、利用者と家族と一緒にその人らしい居室づくりができるように支援している。		